

2019年度 情報システム等の脆弱性情報の取扱いに関する研究会 第3回会合 開催結果概要

- 日時: 2019年12月25日(金)13:30～15:30
- 場所: 文京グリーンコート センターオフィス 15階 委員会室 1,2,3
- 出席者(敬称略):
 - 座長: 土居
 - 委員: 秋山、歌代、北澤、栗田、小島、柴崎、鈴木、高木、高橋、谷川、中野、西嶋、山崎、渡辺
 - オブザーバ: METI 河本課長補佐;CSAJ 笹岡、戸島;JPCERT/CC 宮地、椎木、洞田、高橋、石川、伊藤
 - 事務局: IPA 富田理事長、江口理事、桑名、寺田、渡辺、土屋、板橋、木曾田、田中、井上、唐亀
MRI 村野、江連、小川、平林、朱

●主な論点:

1. 前回会合の確認

事務局から、資料 3-2 に基づき前回会合における検討について説明の後、議事結果概要については委員より承認を得た。

2. ソフトウェア製品の脆弱性対処促進に関する調査について

事務局から、資料 3-3～資料 3-6 に基づきソフトウェア製品の脆弱性対処促進に関する調査について説明の後、委員から以下の意見をいただいた。

- ・ 対応方法のレベル分けについて、他のレベルとの包含関係をはっきりさせたほうが良いのではないか。
- ・ 用語集は ISO 等の表現に合わせた方がよい。著作権に配慮し、必要なものは許諾を取った方がよい。

3. 一般消費者のリテラシー向上に関する調査について

事務局から、資料 3-7～資料 3-9 に基づき一般消費者のリテラシー向上に関する調査について説明の後、委員から以下の意見を頂いた。

- ・ 家電量販店が大きな役割を果たしているのではないか。家電量販店の営業に繋がれるとよいのでは。
- ・ 対象製品を明確にしたほうがよい。意識的にネットワークに繋がらない製品のリスクが高いのではないか。
- ・ 資料 3-9、チェックされた掲載場所を全て見なければならぬのか。「チェック」の説明を記載頂きたい。
- ・ 「脆弱性」「攻撃される可能性」「サポート終了」「アカウント設定」等、消費者に分かる用語に修正すべき。
- ・ 5G 時代、ユーザが意識せずネットワークに繋がることで、さらに問題がある観点は記載しているか。

4. サポート終了製品のパートナーシップにおける取扱いに関する調査について

事務局から、資料 3-10 に基づきサポート終了製品のパートナーシップにおける取扱いに関する調査について説明の後、委員から以下の意見を頂いた。

- ・ 優先情報提供するのは、攻撃される可能性が高いから、という理由か。
 - 優先情報提供の枠組みはあったが、過去あまり実施していなかったところ、運用面の検討を行った。
 - 重要インフラ分野については早期に対応頂きたいというのが基本的な考え方。
- ・ 製品寿命とソフトウェアの寿命は別ではないか。サポートが切れたら製品が利用できない訳ではない。

5. 情報システム等の脆弱性情報の取扱いに関する調査実施報告書(案)について

事務局から、資料 3-11 に基づき情報システム等の脆弱性情報の取扱いに関する調査実施報告書(案)について説明の後、委員から以下の意見を頂いた。

- ・ パートナーシップガイドラインの改訂に関する調査について、引き続き検討し結論が出たタイミングで改訂する場合もあると記載してほしい。

6. その他について

事務局から、今後の進め方について説明の後、委員から了承を頂いた。

委員からのコメントの採否については土居座長に一任する。

以上